

ISO26000の

ISO26000とは＝持続可能な発展を実現するために、世界最大の国際標準化機関ISOによって開発された社会的責任に関する初の包括的、詳細なガイダンス文章。策定には関連するすべての利害関係者が参加し、あらゆる種類の組織に向けた内容となっている。

先駆者たち



出典：ISO26000 社会的責任に関する手引き（日本規格協会）

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」が、2010年11月に発行された。企業だけでなく、行政や教育、医療機関、NPOまですべての組織にSR（社会的責任）が求められている。認証ではなく、あくまでガイダンスだが、早くも動き出した国内外のトップランナーに迫った。

文＝オルタナ副編集長・形山昌由、編集部・吉田広子、寺町幸枝、矢作lundベリ 智恵子（文中敬称略）

「守るべき良い」の守るべき

「認証ではないので、わざわざ守る必要はない」当社はグローバルな事業をしていないので関係ない」

2011年11月に発行されたばかりのISO26000には、すでにさまざまな誤解が渦巻いている。

ISO26000は、2004年6月のISO/TMB会議（スウェーデン）で規格化が決議されて以来、検討を重ね、2010年11月に発行された。90を超える国および40を超える地域から、政府、産業界、NGOなど6セクターのステークホルダーが参画する「マルチステークホルダーアプローチ」という手法によって検討が重ねられた。いわば全地球規模でつくられた「21世紀のビジネスのスタンダード」だ。

ISO26000では、社会的責任の範囲を定義し、課題を特定し、優先順位を設定するために、すべての組織は、「7つの中核主題」（P10）に取り組むべきとしている。課題

に対しては、次の「7つの原則」に基づいた行動を促している。

- ① 説明責任
- ② 透明性
- ③ 倫理的な行動
- ④ ステークホルダーの利害の尊重
- ⑤ 法の支配の尊重
- ⑥ 国際行動規範の尊重
- ⑦ 人権の尊重

企業の規模や業種を問わず

品質管理のISO9001や環境マネジメントのISO14001と違い、ISO26000は、認証ではなく、あくまでガイダンス（ガイドライン、手引き）である。では守らなくて良いのかというと、全く逆だ。

認証であれば企業によって「取得する」「取得しない」という判断ができる。しかし「ISO26000はすべての企業や非営利組織にとつての手引きなので、避けては通れない存在になる」（ISO/SR国内委員会委員長を務めた一橋大学の松本恒雄・法科大学院長）。特に、企業にとっては、取引

を確保し、競争力を維持するためにも遵守が求められる。企業の規模や業種を問わず求められているといっても過言ではない。

日本経団連は、企業はCSRを率先して果たす必要があるとし、2010年9月にISO26000を強く意識した「企業行動憲章」を発表した。松本教授は「ISO26000によって自社の強い所・弱い所を把握することは、企業の競争力を高め、社会から信頼を得るという点で重要だ」と有効性を語る。

企業だけでなく、行政や教育・医療機関、NPOまですべての組織にSR（社会的責任）が求められているのがISO26000の特徴だ。

国際労働財団の熊谷謙一・副事務長も「ISO26000は、国際的なCSRの発展形。世界のあらゆる組織が社会的責任に努力していくという考え方が徐々に広がっていき、持続可能な社会づくりに自主的な取り組みで貢献できるのではないか」としている。



エマ・ワトソン
Emma Watson

エマ・ワトソンとISO26000

ISO26000の中核主題である「人権」や「公正な事業慣行」に対して責任を果たす上で、フェアトレード（公正貿易）製品を購入することは有効な手段である。

日本では、2010年に、映画「ハリー・ポッター」のハーマイオニー役で知られる女優のエマ・ワトソンが、フェアトレードの専門ブランド「ピープル・ツリー」とコラボ企画を立ち上げ、フェアトレードへの関心が高まった。

エマは、若い世代にもフェアトレードを広めたいという思いから、クリエイティブ・アドバイザーとして、「ピープル・ツリー ラブ・フロム・エマ」に2010年春夏に参加。2010年夏には、バングラデシュの首都ダッカのスラムに暮らす、過酷な労働環境下で働く衣料品工場の人たちや、ピープル・ツリーのパートナー団体の生産現場を訪ね、フェアトレードの意義を改めて確認してきた。2011年春夏にも新たなコラボ企画を発表。

エマは、「私たちは消費者として、フェアトレードを通じて手仕事のスキルやコミュニティを守り、さらに発展させるプロセスに参加できるのです」と、消費者の力を訴えている。

©Andrea Carter-Bowman / People Tree